

平成21年2月17日

京情協 地域情報化委員会（21年度 第6回） 議事録

開催日時：平成21年2月17日（火） 17:00～18:30

開催場所：京都コンピュータ学院駅前校 本館1F インフォメーションルーム

参加者：和田、藤関、古川、相原、福本、桧山、中川、桂田（敬称略）

配布資料：地域情報化委員会（第6回）議題、添付資料①～③

議事：

来期事業計画を中心に、以下の議題を検討した。

【議題1：来期の事業計画について】 添付資料①

来期事業計画については、下記案を前回の事業推進委員会に提出している旨、委員長より報告があった。今期と大きくは変わらないが、下記点については変更がある旨、説明がなされた。

- (1) 自律移動支援プロジェクトは3月で終了するため、来期活動では除外。
- (2) 採用に関して大学と連携を図っていく活動は、来期活動では除外。（前期に大学にヒアリングに行ったが、売り手市場のため大学側が乗り気ではなかったため）

1. 府民に対する情報関連技術の啓発・普及事業

- ・ 例年通り、新春セミナーの開催を当委員会で行う。

2. 府内地域産業の情報化促進事業**①官（行政、行政関連団体）との連携**

- ・ IT コンソーシアム京都の部会活動については、今期同様、当委員会としては代表者を出席させ部会活動の概要を議事録として広報する。

②京都府中小企業技術センター、(財)京都産業21との連携

- ・ 京都府中小企業技術センター、京都産業21との連携を図るとともに、昨年に京都試作センター（株）の動きに着目し必要に応じて会員へ情報を広報する。

3. 全国情報関連諸団体との連携事業

- ・ 他府県の情報産業団体との連携、情報収集を引き続き実施する。
- ・ 予算としては、活動を行う場合に最低必要と思われる金額を計上。

4. その他本協会の目的を達成するために必要な事業**①採用支援セミナーの開催**

- ・ 各社の採用担当者のニーズを反映した会員企業向け採用支援セミナーを来期も開催する。
- ・ 景気悪化により採用し易くなるため、支援セミナーが必要かどうかの検討を正副委員長で行ったが、景気が悪いなりの採用の仕方や面接の手法などがあると思われるため、継続して行っていく。

②採用情報の発信

- ・ 「採用耳より情報」を始めとした諸々の採用に関する情報を会員企業に発信する。

5. 平成 21 年度事業計画の予算案（消費税込み）

来期予算案は以下の通り。

・産学交流会（採用支援セミナー講師料）	50,000 円
・新春セミナー開催	280,000 円
・他府県情報産業団体との連携	100,000 円
・委員会開催費	40,000 円
合 計	470,000 円

【議題 2：来期の活動計画案について】 添付資料②

上記の事業計画に記載されている内容以外に、今後の活動計画について、以下のような活発な意見交換がなされた。事業計画には載せないが、実施可能な内容については積極的に行っていく。

6. 大学との連携

- ①各大学の研究室（IT 関係）の研究内容などをインターキョウトで一つずつ紹介してはどうか。
- ・前期の大学ヒアリングは就職課に対して行った。就職課ではなく、大学の教授や IT 関係の研究室と直接接触したいとの意見もあり、上記提案が正副委員長会議であがった。取材としてアプローチすることをきっかけにし、採用に関する情報交換などが出来るようになるのではないかと提案がなされた。
 - ・古川氏より、リエゾンオフィスに関する活動を行っている小林氏、馬場氏の協力を仰いでどうかとの提案がなされた。
 - ・インターキョウトは来期から年 2 回の発行になるため、媒体の検討は必要。
 - ・来期は準備期間とし、検討を重ねる。

7. 人材確保・定着・育成

- ①【人材確保】 新卒者向け合同企業説明会（KVBC との共催）
- ・KVBC で来期実施するかどうか確認、動きを追うこととする。
- ②【人材確保】 中途採用
- ・今期に雇用能力開発機構との連携を探る検討を行ったが、来期は特に活動の実施予定なし。実施するとしても、採用耳より情報で触れる程度。
- ③【定着】 リテンション（早期離職防止）対策
- ・来期実施するかは、講師も含めて検討する。
- ④【育成】 ヒューマンスキルを養うセミナーなどの実施
- ・来期は実施しないが、先では検討、実施したい。
 - ・古川氏より、近情協や京都銀行などの主催による既存セミナーを上手く利用してはどうかとの提案がなされた。

8. 他委員会との連携

各委員会がバラバラに動くではなく、連携可能なテーマについては、他委員会と連携していきたい。

9. 他の団体との連携

①京都市ベンチャービジネスクラブ

(1)人材ネットワークプロジェクトとの連携

- ・上記7の①参照。

(2)集客交流研究会（京都観光とITとのコラボ）との連携

- ・藤関氏より、以下のような異業種との交流に関する話がなされた。

【集客交流会での新東京タワーのプロジェクト担当者との交流】

- ・新東京タワーのプロジェクト担当者と交流を集客交流会で行った旨、報告がなされた。
- ・担当者が京都を訪問され、ITを駆使して何か出来ないか話し合ったが、ITに結びつくアイデアはなかったとのことであった。今からでも何かアイデアがあれば間に合うのではないか。集客交流会としては、タワー完成前に見学に行く予定とのことであった。

【「ぐるなび」との交流】

- ・インターネットのグルメ情報検索サイト「ぐるなび」と交流を行い、食とITのコラボが出来ないか検討した。ITで出来る集客、登録店舗への食材一括供給などの物流サービス、店舗同士の連携を図るITサービスなどについてアイデアがないか「ぐるなび」から相談を受けたとのことであった。
- ・ユニシス殿で阪急キッチンエールの食材宅配システムを開発された事もあり、相談を受けたとのことであった。

②その他異業種交流

- ・現時点で具体案がある訳ではないが、今後、可能性があれば交流を図っていきたい。

10. その他

①ユビキタス・ネットワーク社会の実現に向けた貢献

- ・2年間京都自律移動支援プロジェクトに関わってきたが、今期でプロジェクトが終了する。これに代わる活動案がないか検討中。
- ・京都府はユビキタス特区に指定されているため、何らかの活動に関われないか調査中。ただし、当活動は、京都を訪れる外国人旅行者に対する観光情報の提供など、観光を主眼としているため、当委員会の活動とは結びつきにくいかもしれない。

②コンテストの実施

- ・先で実現できればと考える。

③外向きに発信・活動できる事

- ・地域情報化委員会として、一番活動したい事。

11. 他府県の情報産業団体との連携、情報収集

- ・目的を明確にする必要がある。
- ・古川氏より、中小企業に対して連携を図っていくのか、あるいは特定のテーマ（環境や観光など）について連携を図っていくかによってアプローチ先が異なるのではないかと意見が出た。また、他団体の成功事例を参考にしながら、地域情報化委員会としての立ち位置を考えていくのがよいのではないかと提案がなされた。
- ・古川氏より、広域化と地域イノベーションパートナーシップに関する情報の提供がなされた。京情協に正式に話が来てから検討することとする。

・【広域化】

- ・道州制を視野に入れた広域化推進の動きがあり、京都府でも積極的に展開していく議決がなされ、セクションが立ち上がっている。
- ・災害復旧などの情報の一元化と共有、ドクターヘリの広域利用などを目的としているとのこと。

・【地域イノベーションパートナーシップ】

- ・経済産業省では、地域の中小企業等のIT利活用によるイノベーションを促進し地域経済の自立的成長を牽引する基盤を構築するため、地域のITベンダ（情報サービス業）の供給力強化とITユーザー（サービス業、製造業）とITベンダの連携強化を図るため「地域イノベーションパートナーシップ」を全国9地域で構築予定。関西にも事務局がある。
- ・KCAでも情報収集に動いており、KCAとの住み分けをどうするか検討が必要。

【議題3：その他】

12. ITコンソーシアム京都

- ・地上デジタル放送活用部会（今期第1回目）が2/27に商工会議所にて行われる。
- ・担当である中川が出席。議事録を作成して報告する。

13. 京都自律移動支援プロジェクト実行委員会 添付資料③

- ・今期第2回目の委員会が、3/10に新・都ホテルにて行われる。
- ・11月に実施された宇治・源氏物語ユビキタスガイド実証実験の実施結果と今後の展開に関する議題となっている。
- ・担当である中川が出席。議事録を作成して報告する。

14. 次回地域情報化委員会

- ・3/17(火)開催。
- ・来期活動計画は3月までに固まり議題が少ないため、納会メインとする。追って場所などを委員長から連絡する。

以上